

平成21年度アマノリ養殖概況

加藤慎治

育苗については水車採苗網では10月下旬から、九州網ではやや遅れて開始された。育苗期間中の11月上旬には、シケや高水温等で一部では養殖セットの傷みや芽落ち被害がみられたが、病害等の発生はみられず全体的には順調な育苗となった。

11月中旬以降の海水温の降下は平年並みで、11月下旬から本養殖が開始された。本養殖後の生産については、年内の12月～翌2月の共販枚数は昨年と比べ92～102%と近年の平均的な数量であったが、3～4月にはシケの日が多く、ノリ葉体の流失や操業日数の減少により、生産枚数が減少

した。また近年問題となっている色落ち被害については、1～2月に県南漁場で大型珪藻が繁茂し一時的に低栄養塩となったが、3月以降は適度な降雨に恵まれ栄養塩レベルが回復し、顕著な被害は発生しなかった。

図1に平成21年度、20年度の月別徳島県漁連共販枚数を、図2に年度別共販枚数と平均単価の推移を示した。顕著な色落ち被害はなかったものの、3月以降は生産量が上がらなかったため昨年を大きく下回り、漁期全体の共販枚数は昨年度比88%となった。また平均単価は昨年とほぼ同じ水準であった。

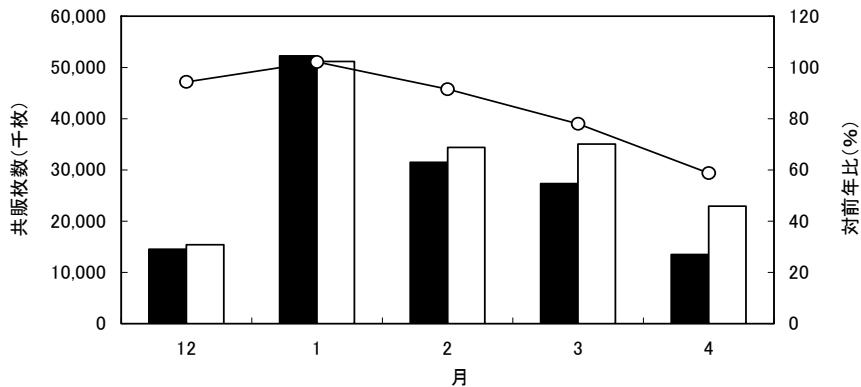


図1. 月別共販枚数の推移。 ，平成21年度； ，平成20年度； ，対前年比

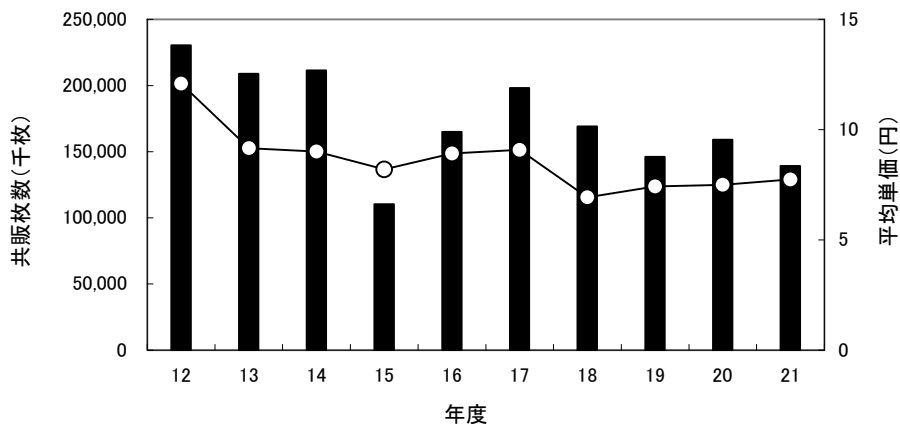


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，平均単価